

横浜市立万騎が原中学校 学校だより



# 桐の花

令和4年

11月24日

校長 中村 雅一

横浜市旭区万騎が原 31 TEL 045-391-5514 FAX 045-391-5537

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm>

生徒の皆さんへ 『ちょっと、立ち止まって』

副校長 大田 雅裕

体育祭と桐花祭という二大行事が終わりました。その余韻に浸る間もなく後期中間テストを迎え、17日にはそのテストも終わりました。目まぐるしく日々は過ぎ、やるべきことは際限なくその身に降りかかってくる。しかし、ちょっとだけ立ち止まって振り返ってみたいと思います。

担任の先生は、みんなと“嬉しい気持ち”も“苦しい気持ち”も一緒に感じながら過ごしてきました。実は、みんなが見えないところで、いろいろな努力をしていました。合唱の指導を音楽科の先生に聞きに行ったり、先輩教員のアドバイスを聞いたり、授業の準備以外の時間にたくさん努力していました。そして、クラスみんなにどうやって伝えようかと、思い悩み、工夫していたのです。きっと当日は、みんなと同じようにドキドキしていたはず。その“気持ち”の根っこにあるのは、「みんなと一緒に行事を成功させたい」、「みんなの笑顔が見たい」、「みんなにとっていいクラスにしたい」こんな“想い”だったのではないのでしょうか。

そんな担任の先生の他にも、学年主任や副担任の先生の“想い”、クラスメイトや友だちなどの仲間の“想い”があります。みんなは、様々な“想い”をもった人たちに囲まれています。

保健室の先生は、いつも健康を気にかけてくれて、具合の悪い時や怪我をした時に対応してくれます。技術員さんが学校環境をキレイに整えてくれて、学校事務さんが学校に必要なものを揃えてくれます。学校司書さんは図書館を使いやすく、素敵にしてくれています。他にも、スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）が相談にのってくれます。

なにより、家族の“想い”があります。食事や衣服を用意してくれたり、行事を見に来てくれたり、話や悩みを聞いてくれたりします。時には、あまりにいろいろと言われるので、思春期のみんなにとっては煩わしく感じることもあるでしょうが、元々の“想い”は、やはりありがたいものだと思います。その“想い”は、人生の様々な場面でみんなを応援してくれるものです。そして、応援してくれる人の存在は自分に力を与えてくれることがあります。

これからも様々なことに立ち向かうことがあるでしょう。時にはくじけそうになることもあると思いますが、そんな時はちょっと立ち止まって、自分の周りにある“想い”を確認してみてください。自分をお手伝いしてくれる人がいるというだけで、もう少し頑張ることができるかもしれない。そして、様々な“想い”をもった自分の周りにいる人たちを大切にしてください。

## 桐花祭を終えて

桐花祭実行委員長（職員） 小佐野雄大

今年度も、大いに盛り上がった桐花祭となりました。感染症対策に留意をしながら行う桐花祭は生徒達や保護者の皆様も心配なことが多かったことと思います。桐花祭を終えて、再確認できたことは、生徒達と教員の合唱コンクールに対する熱意、そして、生徒会本部役員・合唱部・演劇部・吹奏楽部のステージ発表へかける意気込み、科学部・美術部・ボランティア部の展示発表まで積み上げた想いです。

昨年度は、「コーラスフェスティバル」として順位付けをせず再演のみを決めました。今年度は、順位を付ける「合唱コンクール」を行いました。どのクラスも練習から、熱心に歌い、話し合い、時には自分の意見を伝えるなど、よりよい合唱を創り上げる様子を感じられました。

結果発表では、悔しさで涙する生徒、嬉しさで涙ぐむ生徒を見ることが出来ました。きっと、どのクラスも、練習から本番まで真剣に取り組んだからこそ、感情が溢れたのだと感じます。また、多くの保護者の方にも鑑賞をしていただき、生徒達の歌声に心を動かされたのではないのでしょうか。

桐花祭では、生徒会本部役員が担った開会式から合唱部・演劇部・吹奏楽部の発表で盛り上がる全校生徒の様子を見ると、「桐花祭を楽しみにしていた」「発表団体を盛り上げようとしている」そんな感想をもちました。

これからも「生徒達の力・行事に対する熱意」を大切にしていき、また教員達もそんな生徒達に負けないように関わっていきたいと思います。来年度も、桐花祭という万騎が原中学校の伝統が、良い形で引き継がれ、発展していくことを願っています。

### <各クラスの練習風景>





## 令和4年度 全国学力・学習状況調査 万騎が原中学校の結果

令和4年4月に中学校3学年を対象に実施された全国学力・学習状況調査の各教科に関する結果と生徒の意識に関する結果の概要をお知らせします。

### ◎各教科の調査結果から見る本校の状況

- ・調査結果においては、横浜市の平均正答率と比べ、高いか同等の状況です。

【平均正答率%】	国語	数学	理科
万騎が原中 (横浜市との差)	<b>71%</b> (+1%)	<b>55%</b> (+1%)	<b>52%</b> (+1%)
横浜市	70%	54%	51%
神奈川県	69%	53%	50%
全国	69%	51%	49%

### ◎各教科の調査結果から見て特徴のある設問

#### 《国語》

#### ■横浜市の平均正答率と比べ、おおむね同等の状況

- ・「論理の展開などに注意して聞く」が4ポイント高い結果であった。
- ・「「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く」という問いについて5ポイント高い結果であった。

#### 《数学》

#### ■横浜市の平均正答率と比べ、おおむね同等の状況

- ・一次関数の変化の割合の意味を理解しているかの問いについて4ポイント高い結果であった。
- ・「ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ」反例の意味を理解しているかの問いについて5ポイント低い結果であった。

#### 《理科》

#### ■横浜市の平均正答率と比べ、おおむね同等の状況

- ・予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる」が5ポイント高い結果であった。

### ◎ 児童生徒質問紙から見て特徴的だった結果

「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いについて、【当てはまる どちらかという当てはまる】と回答は、82.6%であった。



